

くノ雜行雜修自カノコ、口ヲフリステ、
 心ニ阿彌陀如來我等カ今度ノ一大事ノ後生
 ヌスケサフラヘト。タノミマウシテサフラフ。
 タノム一念ノトキ往生一定御タスケ治定トソ
 ンシ。コノウヘノ稱名ハ。御恩報謝トソシヨロ
 コヒマウシ候。コノ御コトハリ。聽聞マウシワケ
 サフラフ事。御開山聖人御出世ノ御恩。次第相承
 ノ善知識ノ。アサカラサル御勸化ノ御恩ト。アリ
 カタクソシ候。コノウヘハ。サタメオカセラル

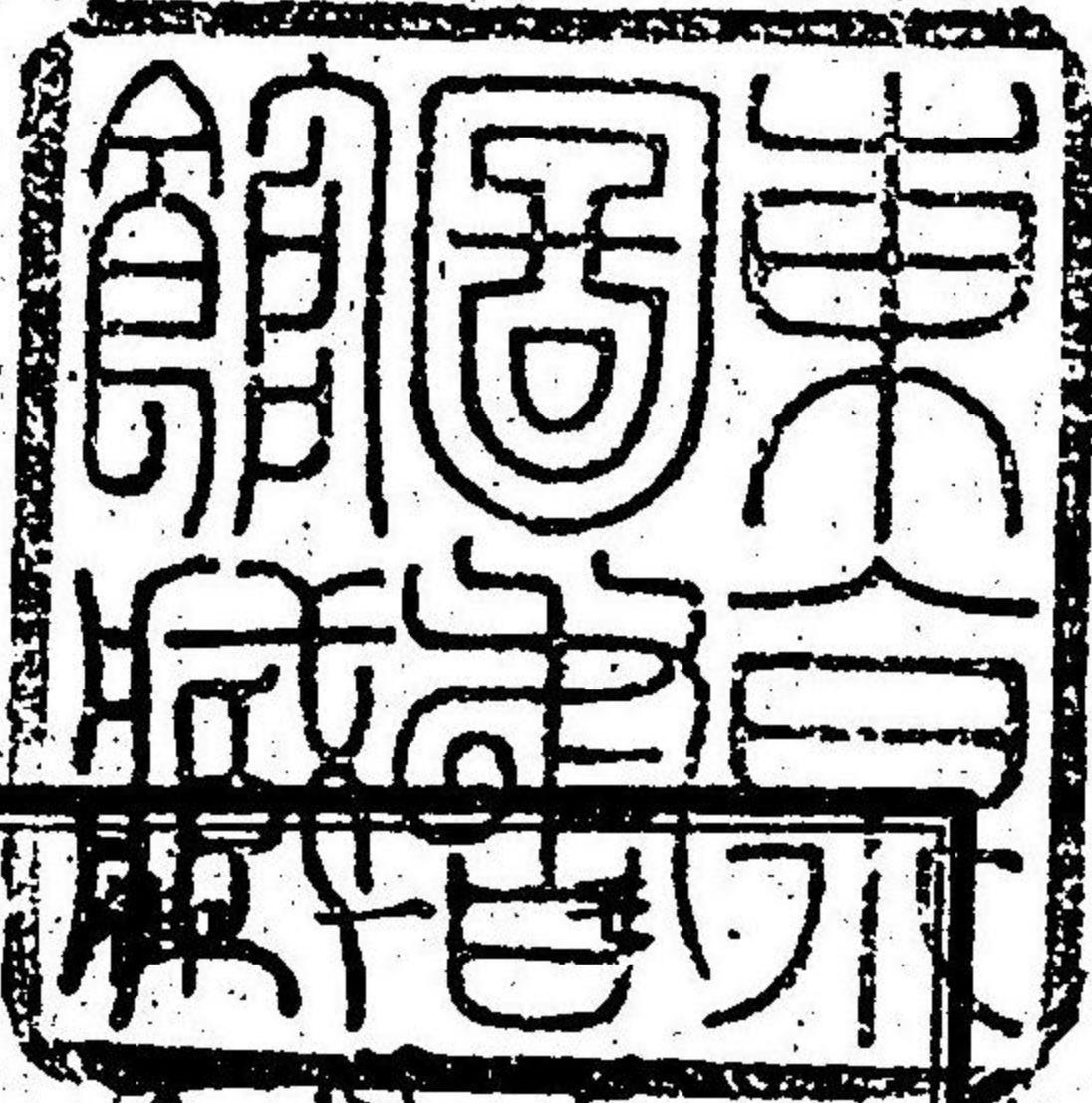
願解文問討

二

明治十一年二月發兌

願解文問討

本願寺編輯場在版



くノ雜行雜修自力ノコ、ロヲフリステ、
 阿彌陀如來我等カ今度ノ一大事ノ後生
 スケサフラヘト。タノミマウシテサフラフ。
 タノム一念ノトキ往生一定御タスケ治定トソ
 シ。コノウヘノ稱名ハ、御恩報謝トソシヨロ
 コヒマウシ候。コノ御コトハリ、聽聞マウシワケ
 サフラフ事。御開山聖人御出世ノ御恩、次第相承
 ノ善知識ノ。アサカラサル御勸化ノ御恩ト。アリ
 カタクソシ候。コノウヘハ、サタメオカセラレ

願解文同封

二

ル御オキテ。一期ヲカキリ。マモリマウスヘク候。
右領解出言之文ハ。信證院蓮如師ノ定オカセ
ラル、所ナリ。眞宗念佛行者已ニ一念歸命信
心發得セル領解ノ相狀也。是故ニ古今一宗ノ
道俗。時時佛祖前ニシテ。コノ安心ヲ出言シ。自
ノ領解ノ謬ナキコトヲ敬白スルナリ。然ルニ
間其後生ノ一大事ヲ輕忽シ。自ラタシカニ彌
陀ヲタノミタル一念ノ領解モナク。亦コノ領
解文ヲモ記得セサル類アリ。アルヒハ記得シ

出言シナカラ。心口各異ニシテ。慚愧セサルモ
ノアリ。甚悲歎スヘキトコロナリ。コヒ子カハ
タハ一宗ノ道俗。コノ出言ノコトク。一念歸命
ノ本源ヲアヤマラス。如實相應シテ。速ニ一大
事ノ往生ヲ遂ヘキモノナリ。コノ故ニ今ヒメ
オキシ蓮師ノ眞蹟ヲ模寫シ。印刻シテ。家コト
ニ傳ヘ。戸コトニ授テ。永ク淨土眞宗一味ノ正
意ヲ得セシメント思フモノ也。
天明七年丁未四月

釋文如識之

領解文問對

遠藤玄寵述



問此一紙ノ領解文誰ノ製シタマフ所ソ

答我中興蓮如宗主之ヲ作リタマフ上ニ掲ル
奥書ニ云カ如シ

問何ノ爲ニ作リタマフヤ

答領解出言ノ方軌ヲ定シカ爲ナリ、蓮師一代
ノ著書多ト雖、信者敬白ノ文體ヲ以テ、具ニ領
解ノ相狀ヲ知ラシムル者、此文ニ限レリ、
問領解出言ノ故實アリヤ

答淨土論ニ世尊我一心トノタマヘルヲ、曇鸞
和尚釋シテ天親菩薩自督之詞ナリト云、又慶
信房自督ヲ書シテ祖師ニ伺シコトアリ、未燈
西國ノ人ノ安心ヲ出言セシコトアリ、一代
實語此等ヲ以テ故實ヲ知ルヘシ、書末

問 出言スルハ何ノ爲ソ、

答ニ意アリ、一ニハ自ノ領解謬ナキヲ敬白シ、
其印可ヲ請シ爲ナリ、上ニ舉ル慶信房ノ事ノ
如キ是也、二ニハ他ニ對シテ、一味ノ領解ニ誘
引セシカ爲ナリ、勸章ニ迴心懺悔シテ諸人ノ

耳ニコレヲキカシムト云ヒ、第五帖又コノ迴
心懺悔ヲキ、テモ、ケニモトオモヒテ等ト云
ヘル前是也、

問 文如宗主ノ奥書ニ、領解文ト名ケタマヘリ、其
義云何、

答 領ハ領受、解ハ解了ノ義ニシテ、知識ノ教語
ヲ領受シ、教ノ如ク解了スルコトニテ、即チ信
心ノ異名ナリ、法華文句ニ舍利弗領解ヲ釋シ
テ、領其所聞、述其所解ト、妙樂解シテ領謂外領
佛語、解謂內受佛意ト、今亦准知スヘシ、

問改悔文ト稱スル者アリ云何

答改ハ變改、悔ハ懺悔ニシテ、正シキ領解ヲ得タル時、即チ從來心得アヤマレル過ヲ改メ、之ヲ悔ルノ義アリ、故ニ此名モ亦カナヘリ、但改悔ノ名ハ既往ノ過ニ對ス、今ノ文モロク止アリステ、ト云フ主トス、領解ノ名ハ今日ノ得ルトコロニ就ク、今ノ文一心ニ阿彌陀如來已下ヲ主トス、理實ニハ、聞去、明來、豈異時ナランヤ、

問今ノ文分テ幾節トスルヤ、

答安心報謝師德法度ノ四節トスルコト、由來久矣、然ニ安心行狀以テ之ヲ論スレハ、初ノ一節ハ是安心、後ノ三節ハ皆行狀ニ屬ス、眞俗ニ諦ヲ以テ之ヲ約スレハ、初ノ三節ハ眞諦ニ歸シ、後ノ一節ハ是俗諦ナリ、思テ知ルヘシ、

問安心ノ一節細科如何

答モロクヨリアリステ、ニ至ルハ、所捨ヲ舉ケ、一心ニヨリ下ハ、能取ヲ叙スルナリ、

問所捨ヲ舉ルノ文義如何

答モロクトハ非一ニ名ク、雜行ノ體無量故ニ

モ口くト云、又之ヲ雜修自力ニ及ホシテ、種類
一ニ非ルヲ云、ト解スルモ亦通ス、

問雜行トハ何ソ、又何故ニ雜行ト名ルヤ、

答雜行トハ正行ニ對シタル名ニシテ、善導大
師散善行ニ二種ヲ分チ、一者正行、二者雜行ト
云、其正行トハ、讀誦等ノ五正行ニシテ、專ラ彌
陀一佛ニ就ク行事ナリ、コノ五正行ヲ除テ、餘
ノ諸善ヲ悉ク雜行ト名ルナリ、之ヲ雜ト云ハ、
人天菩薩等ノ解行雜ル故ナリ、化土卷
本村七即チ雜
迷ノ義ナリ、

問其所謂ノ五正行トハ何ソヤ、

答一ニ讀誦正行、專ラ淨土ノ三部經ヲ讀誦ス
ルナリ、二ニ觀察正行、專ラ彌陀ノ淨土ノ二報
莊嚴ヲ思想シ觀察スルナリ、三ニ禮拜正行、專
ラ彌陀ヲ禮スルナリ、四ニ稱名正行、一心ニ專
ラ彌陀ノ名號ヲ稱フルナリ、五ニ讚嘆供養正
行、專ラ彌陀一佛ヲ讚嘆シ、供養スルナリ、五正
行ヲ合シテ正助ノ二トシ、第四ノ稱名ヲ正定
業トシ、前三後一ヲ助業ト名ケタリ、散善
義也

問雜修トハイカナルコトソ、

答雜修トハ專修ニ對シタル名ニシテ、上ニ列
 ル五正行ノ中、正助ノ差別アル故ニ、正定業タ
 ル第四ノ稱名ヲ專ラ修スルヲ、名テ一向專修
 ト云、之ニ反シテ助ト正ト間雜シ、並ヘテ修ス
 ルヲ雜修ト云、化土卷彌陀本願ノ名號コソ正
 定業ナル、ヘキラ、ソレノミニテハ不足オモヒ
 テ前三後一ヲモ往生ノ業トシ、兼子ナラヘテ
 修スル故、之ヲ雜修ト貶スルナリ、
 問助正兼行ノ外ニ雜修ト名クヘキモノナキヤ、
 答有リ、佛號ム子ト修スレトモ、現世ヲイノル

行者ヲハ、是モ雜修ト名ケタマヘリ、高僧和讚
 コレ行ハ專一ナレハ、直ニ雜修トイヒ難シ、然
 レトモ其心名利ト相應シ、往生ノ行業ヲ以テ、
 現世ノイノリトス、是其心現當ニマタカリテ、
 純一ナルコト能ハス、如是、雜心ヲ以テ修スル
 故ニ、是モ亦名テ雜修トスルナリ、
 問所言ノ如キハ、雜行ト雜修ト其事タル大ニ異
 ナリ、然レトモ共ニ雜ト云ヒ、又行モ修モ通用ス
 レハ、其名全ク同シ、イカンカ其義ヲ區別セシ、
 答其言一ニ似テ、其意惟異ナリ、化土卷雜行ノ

名ハ行體ニ就ク、雜ハレル行トヨミテ、万行諸
行ト云、ニ同シ、正ニ對スルノ雜ニシテ、專ニ對
スルノ雜ニアラス、雜修ノ名ハ修相ニ就ク、雜
ヘ修スルトヨム意ニテ、兼行ト云、ニ同シ、專ニ
對シテ、正ニ對セス、此其大別ナリ、細ニ論セハ
其義重々、今之ヲ略ス、

問 自力ノ心トハ何ヲ指スヤ、

答 是ニ二意ヲ含メリ、一ニハ上ノ雜行雜修ハ
皆行ニ於テ云、今ソノ雜行雜修ヲツトムル能
修ノ心ヲサシテ自力ノ心ト云、ナリ、ニニハ雜

行ヲステ、正行ニ歸シ、雜修ヲステ、專修ト
ナル、然ルニ專修ニ於テ亦自力他カアリ、二十ノ
願ノ念佛ハ、即自力ノ專修ナリ、此自力ノ專修
モ亦必可捨モノ故ニ、雜行雜修ノ外ニ更ニ自
力ノ專修ヲ擧ケ、之ヲ自力ノ心ト云、ナリ、

問 フリステ、トハイカナル義ノヤ、

答 捨ノ言ハ歸ニ對ス、選擇集今捨字ヲフリス
テ、ト訓ス、即チ拋擲シテ願サルノ謂ナリ、故
ニナケウチテト云ヒ、サシオキテト云ヒ、又目
ヲカケスシテト云フ、コノ捨ハ歸ト同時ニシ

テ、聞去、明來、前後ナキカ如シ、聞ノ去ルハ、明之ヲ去ラシム、自カヲ捨ルハ、他カヲタノムト同時ニシテ、佛カヨク之ヲ捨シメタマフナリ、故ニ佛、遺捨者、即捨佛、遺行者、即行是名、隨順佛願、散善トイヘリ、然レハステテト云テ、テノ言ハ、文字上ノ次第ニシテ、時ニ前後アルニハ非ル也、問能取ヲ叙スルノ文義云何、

一 答前ニ所捨ヲ擧ケ、今能取ヲ叙シ、以テ一家廢立ノ安心ヲ述成ス、能取ヲ叙スル中、初ニ一心ト標シ、後ニタノムト結ス、コノ一心ニタノム

ト云フ相ヲ具ニシテ、阿彌陀如來我等カ今度ノ一大事ノ後生御助ケ候ヘト示シタマヘリ、即チ淨土論ニ一心ト標シ歸命盡十方無礙光如來ト述成セルト同シ、然レハ一心ト、タスケタマヘト、タノムトハ、唯一ノ無疑心ナリ、問一心ノ名義云何、

一 答一ノ言ハ無ニニ名ク、即チ教主世尊ノミコトヲフタコ、口ナク疑ナシト也、佛專一ニシテ疑貳ナキノ謂ニシテ、コレヲ疑蓋無雜ト云フ、若、所歸ノ佛ニ望ムレハ一向ト云フ、即、阿彌

陀佛ニ於テ二佛ヲナラヘサルコ、ロナリ、
二帖今ノ文阿彌陀如來ヲ以テ一心ヲウクル
此意アリ、但散善義ニハ、二行ヲナラヘサルヲ
一向ト云ヒ、一心ト少別ナリ、今一心一向ヲ同
シユ、ロトスル、是勸章ノ一體ナリ、

問御一代聞書ニ一心トハ、彌陀ヲタノメハ如來
ノ佛心トヒトツニナシタマフカユヘニ一心ト
イヘリト云フ、其義如何、

答佛心凡心一體ノ義ニヨリテ、一ノ字ヲ轉釋
セルナリ、是の訓ニアラズト雖、如實ノ一心、理

實ニ然ルモノナリ、

問阿彌陀如來_至御タスケ候ラヘト云フハ一心
ヲ述成スト云フ、其義如何、

答阿彌陀如來トハ所歸ノ佛體_{佛轉トイハト}
_{モ、形像ニハア}ラ_多混_ヲ標_シ、我等カ今度ノ一大事ノ後生トハ
自ノ所期ヲ舉ク、御助ケ候ラヘトハ即チ自ノ
所期ヲ以テ、所歸ノ佛ニ投託スルノ謂ニシテ、
即是一心ノ信相ヲ示シタマヘルナリ、

問我等カ今度ノ一大事ノ後生ト云、其義如何、
答我等トハ正ク自身ヲ指ス、等ノ字ヲ用ルハ

一種ノ語例ナリ、今度トハ順次ノ生ヲ指ス、一
 大事トハ語ハ法華ニ出ツ、一ハ二三ニ對ス、即
 其事タル重大ナルヲ以テ一大事ト云フ、信ス
 レハ解脱シ、信セサレハ流轉ス、迷悟昇沈ノ分
 界、豈一大事ニアラスヤ、後生トハ後世ト同シ、
 今世ニ對シテ來世ヲ指ス詞ナリ、
 問御助ケ候ヘトタノミ申テ候ト云、其義如何、
 答御助ケ候ヘトハ即歸命ノ和述ナリ、勸章帖五
 一目第十ニ曰、ソレ歸命トイフハ、スナハチ助ケ
 タマヘトマウスコ、ロナリト、是助ケタマフ。

佛願力、即チ本願招喚ノ救命ニ、助ケタマヘマシ
ハ、候ラベ、其義同シ、又ト歸順スルコ、ロナリ、
 行卷五ニ九ノ歸命釋、起信義記註ノ釋、歸是敬願
命、教通別併考、ヘシ、又善導ノ深心釋ニ、決定深
 信彼阿彌陀佛四十八願攝受衆生、無疑無慮衆
 彼願力、定得往生ト云ヘリ、教善佛ノ攝受衆生
 ノ大悲心、衆生心中ニ徹到スルヲ、衆彼願力ト
 云フ、是御助ケ候ラヘ也、即チ無疑無慮ノ信ニ
 シテ、サラニ願求心ヲ運フニハアラス、又タノ
 ムトハ信ノ和訓ニシテ、信トイフハフカク人

ノコトハヲタノミテ疑ハサルナリ、唯信古人
万葉集不信ノニ字ヲ、等ヲ引テ證トス、然ルニ
歸命ト信トハ固ヨリ一體一義ナレハ、御助ケ
候ラヘトタノムトハ、同ク無疑ノ一心ナリト
知ルヘシ、

問 御助ケ候ラヘトタノムノ詞ハ誰ニ始ルヤ、

答 後世物語ニ助ケタマヘノ語イテタレトモ、
之ヲタノムニ熟用シタルハ蓮師ニ濫觴ス、代一
未聞書又念持ノ義ヲ始唱シタマフヲ以テ、中興
タル所以トセリ、遺德皆同意ナリ、以テ中祖ノ

婆心ヲ仰クヘシ、

問 マウシテ候フト云ハ如何、

答 マウストハ、他ニ^和練ライフ處アレトモ、今
ハ崇敬ノ詞ニシテ、奉ノ字ノ訓ナリ、^奉宣諸政
日本書紀等其例多シ、又勸章ニ^數タノミタテ
マツルノ語アリ、テトハ^而字ノ意、過去ヲ示ス
詞、安心報謝ノ前後アルユヘナリ、

問 タノム一念トハ如何ナル義ソ、

答 此一句トタノムシヨリ、^{治定}ハ結前生後ニシテ、
上ノ一心ニタノムト云フ安心ヲ承テ、即得往

生ノ現益ヲ示シ、以テ唯信正因ノ旨ヲ確定シ、
下ノ報謝ヲ起ス、一念トハ本願成就文ノ一念
ナリ、信卷未ニ約心體ト約時尅トノ二釋アリ、
約心體トハ、信心無二心故曰一念、是名一心、約
時尅トハ一念者顯信樂開發時尅之極促、モシ
通途ニヨラハ、百一ノ生滅ヲ一刹那トシ、六十
刹那ヲ一念ト名ク、上論註今ノ一念ト云フハ、時
ニ約ストハ雖假時ニシテ實時ニアラス、信受
本願ト即得往生トハ、更ニ隔ナク、信心定ル時、
往生亦定ルコトヲ顯シテ一念トイフ、故ニ時

トイハスシテ、一念ノ竝トコロトモイヘリ、
問 往生一定等ト云、ソノ義如何、

答 成就文ノ聞信一念即得往生ノ義ニヨリテ、
本願他力ノ妙益ヲ示ス、往生トハ此穢土ヲ去
テ彼淨土ニ生ル、ヲ云フ、此生ヤ三界有漏ノ
生ニ非ス、生即無生ノ涅槃界ニ至ルカ故ニ、永
ク六趣四生ノ因果ヲ滅亡ス、信卷若身命終ナ
レハ、臨終ノ夕、滅度ニ至ル、往生即成佛ナリ、今
ハ心命終ニ約ス、心命終トハ、平生ニ歸命ノ一
念起ル時ヲ指テ、迷心ノ盡ルトモ、娑婆ノ終ト

モ云、執持即正定聚ノ益ナリ、之ヲ即得往生ト云、一定治定其義同シ、事ノ定リテ動カサルヲイフナリ、

問 往生ト成佛ト同異如何、

答 往生ハ捨此往彼ニ約シ、成佛ハ轉迷開悟ニ約ス、之ヲ廣略二門ニ約スレハ、廣門ニテハ往生ハ初門、成佛ハ終門トス、淨土論五功德門、要集上本增進佛樂、略門ニテハ往生即成佛トス、極樂ヘマイリ即チウツクシキ佛トナルナリ、勸今家ハ常ニ略門ニ約ス、所謂難思議往生ナリ、然レハ名ハ

所望ニ隨テ異タレトモ、其意ハ惟一ナリ、問已ニ往生一定トイヒ、重テ御助ケ治定トイフハ、何ノ所由アルヤ、

答 一念ノ即時、自ラ此ニ益ヲ得ルコトヲ示ス、謂ク往生一定ハ入正定聚ノ益、御助ケ治定ハ攝取不捨ノ益ナリ、而テ往生一定ハ所期ノ果ニ望メ、御助ケ治定ハ所歸ノ佛ニ望ム、即チ阿彌陀ノ三字ニオサメタスケスクフノ義アル故也、如此ノ二益ハツ井ニ一益ニ歸ス、和讚ニ攝取不捨ノ利益ニ一、等正覺ニイタルナリト、以テ

知ルヘシ、

問コノウヘノ稱名等トハ何ノ義ヲ示スヤ、

答上ニ安心ヲ明シ、今正ク報謝ヲ示ス、故ニコ

ノウヘトハ安心決得以後ヲ指ス、即チ信因稱

報ノ宗要ニシテ、所謂信心發得已後ノ念佛ヲ

ハ自身往生ノ業トハオモフヘカラス等ノ意

ナリ、改邪鈔釋勸章是口傳鈔ニ信ノウヘノ稱

名ノ事トイヘルヲ承ケタマフナリ、カノ信行

同時ノ説ノ非ナルコト、是ヲ以テ知ルヘシ、

問稱名報恩ノ義何レヲ承ケタマフヤ、

答終南ハ相續念報、彼佛恩トイヒ、禮讚高祖ハ

唯能常稱如來號、應報大悲弘誓恩トノタマヘ

リ、正信其源ハ本願ニ乃至十念ト誓ヘリ、乃至

トハ上下久近一多等ヲ兼ル言ナリ、一多證文、唯信文意、

其上下ヲ分テ、下至一念ハ信心決定ノスカタ、

上盡一形ハ佛恩報盡ノ念佛ナリト決判ス、勸

一帖目然レハ行ノ多念ハ信ノ一念ヨリ流出

シテ、命延レハ自然ト稱スヘシ、往生ハ一念ノ

即時ニ定ル、故ニ正因ハ聞信ノヒトヲニテ、更

ニ不足アルコトナシト顯ス、是乃至ノ言ナリ、

如此乃至ヲ冒リタル十念ノ稱名ナレハ、何ソ
往因ニ擬センヤ、全ク報謝ト存スヘキナリ、
問稱名スルハ何故ニ報恩ヲ成スルヤ、

答上佛徳ヲ讚シ、即此文四十稱佛六字下衆生ヲ化
スルカ故ニ、一代聞書人モ信ヲ入道ノヨロコブ
コノ自行化他ヲ以テ報恩トスルコト、終南ノ
自信教人信ノ文ニ在テ揭焉ナリ、

問禮誦供讚スヘテ是報恩ナルヘシ、今何ソ稱名
ノミヲ舉ルヤ、

答蓋ニ義アリ、一ニ由本末故ニ、二ニ由難易故ニ由

本末トハ、稱名ハ報恩ノ本行、禮誦等ハ末行ナ
リ、稱名ヲ本行トスルハ、本願ノ所誓ナル故ナ
リ、式文ニ不如念名願順彼本懷ト、又勸章ニ稱
名念佛ノ本行ヲツクス四帖目トイヘリ、由難
易トハ、稱名ノ一行ハ行住坐卧ヲ簡ハス、長時
不退ニ修シ易キコト、終南横川吉水ノ勸諭ニ
見ユ、又勸章ニアラ行シヤスノ名號ヤトイヘ
リ、此ニ義ニ由テ稱名ノミヲアク應知、
問コノ御コトハリ已下ハ何ヲ明スヤ、
答安心報謝ノ二節上ニ終リ、今ハ師徳ヲ冀ス、

コノ御コトハリトハ、上ノ信因稱報ノ法義ヲ指ス、而テ下ノ掟ヲ守ルコトモ、亦自ラ此中ニ攝シテ、法義モ掟モ師教ヲ守ルヨリ外ナキコトヲ顯ス、聽聞トハ聲入^ラ耳^ヲ謂^フ聞^ク、耳待^テ聲^ヲ謂^フ聽^ク、儀集^ト是^レ通^ス途^ノ說^{ナリ}、當流ノ義ハ、如實ノ聽聞ハ信ト全同シ、共ニ無疑決定ヲ義トスルカ故ナリ、信卷末九、銘文第十一

問 御開山ノ御恩トハ如何、

答 御ハ崇敬ノ詞、開山トハ黑谷ノ正統ヲ傳ヘ、大谷ノ一流ヲ開闢シタマフニ各ク、聖人ノ聖

ハ正也通也、能ク邪正ヲ分別シ、事理ニ通達シタマフニ名ク、出世トハ出現世間、即チ日域ニ出誕シタマフヲ云、恩トハ恩惠恩德ノ義ニシテ、真諦ニテハ七祖ヲ大成シテ、信心爲本ノ義ヲ弘メ、俗諦ニテハ在家示同ノ宗風ヲ開テ、王法爲本ノ教ヲ布キタマフ、皆是高祖ノ恩惠ナリト仰クヘシ、

問 善知識ノ御恩トハ如何、

答 止觀ニ教授同行外護ノ三種ノ知識ヲ明ス、今ハ其中ノ教授ニ當ル、又五ノ善知識ノ中、真

ノ知識ニ當ル、下三卷鈔眞ハ假ニ對シテ、弘願眞實ヲ勸メタマフカ故也、アサカラサルトハ、高祖已來毫末ノ誤ナク、法脈貫通シテ門葉ヲ化導シタマフ、其恩不淺少ヲイフ、勸化トハ勸ハ勸進勸諭、化ハ開化化轉、即チ雜行自カヲ捨テ、本願他カニ入ラシメタマフヲ云、アリカタクトハ謝恩ノ方言ナリ、希有ノ義モ亦通ス、善知識ノ恩徳ハ眞要鈔末下三卷ニ委述セリ、
 問コノウヘハサタメオカセラル、御掟等トハ、何ノ義ヲ示シタマフヤ、

答以下ハ第四節ニシテ法度ヲ明ス、コノウヘトハ、マツ眞諦安心ヲ心得テ、後ニ俗諦行儀ヲ守ルヘキ旨ヲ示ス、オキテトハ邦俗掟ノ字ヲ充ツ、即チ守ルヘキノ法則制度ヲ云フ、中祖三箇條六箇條八箇條等ノ制約ヲ立タマヘリ、章一期ヲカキリトハ、期ハ限也時也、命アラシト云ニ同シ、守ルトハ持テ失ハサルノ意、ヘクトハ豫メ將來ヲ要約スルノ言ニレテ、自ラ將來堅ク法度ヲ守リテ犯サ、ルコトヲ陳述スルノ意ナリ、

問サタメオカセラル、トハ、誰カ之ヲ定メタマフヤ、

答上ノ祖師善知識コレ其制定ノ人ナリ、已ニ師教ニ由テ往生ノ大事ヲ安堵ス、何ソ其定メタマフオキテヲ守ラサランヤ、若之ヲ犯サハ師恩ニ違フナリト、上ニ接シテ反覆ノ意趣ヲ合メリ、

問當流ノオキテヲ定ル其根據如何、

答古來多説アリ、今ニ説ヲ出サン、先一説ニ、本願ノ唯除等ノ八字ヲ其所依トス、彼正法ノ言

ヲ鸞師釋シテ若無諸佛菩薩說、世間出世間、善道、教化衆生者、豈知有仁義禮智信耶論註トイヘリ、然レハ唯除ノ誠ニ、世間ノ仁義ヲモ守レヨト勸ル意ヲ含ム、弘願ノ行者ハ固ヨリ通途ノ深信因果ノ人ニ異ナレトモ、信徳自然ニ不知不識世出世ノ善因果ノ道理ニ契フ、之ニ反シテ世法ヲ廢棄スル者ハ固ヨリ出世ヲ信セサル邪見ノ人ナリ、是唯除ノ誠アル所以ナリ、問終南ハ唯除ヲ判シテ抑止門トセリ、敬善攝抑ハ往生ノ得不ニ關ス、然レハ若掟ヲ誤レハ、往生

亦遮スルトセシヤ、

答抑止ハ釋迦ノ方便ニテ、口傳鈔信前ノ者ニ
向テハ信機ヲ生シ攝取ヲ仰カ令ルタメ、信後
ノ人ニ對シテハ、慚愧ヲ生シ前非ヲ悔悟令ル
タメナレハ、唯コレ假ニ設タル方便ナリ、何ソ
コレヲ眞實トシテ往生ヲ遮センヤ、須ク佛意
ノ所在ヲ知テ慚愧シ、イヨク佛恩ヲ報スヘシ、
是抑止方便ノ素意ニシテ、攝取中ノ抑止ナリ
ト知ルヘシ、

問、旋ノ根據ニ二說アリト云、後ノ一說ハ如何、

答一家ノ旋ハ大經悲化段五善五惡ノ勸懲ニ
由テ立ツ、即チ經文ニ其有至心願生安樂國者、
安勿得隨心所欲、虧負經戒、在人後也、新ト說テ
リ、此經戒トハ後ニ擴說セル五善五惡ノ勸誡
ナリ、五戒五善五常ハ同一ニ歸ス、鈔改邪之ヲ一
家ノ道禁トスルナリ、本願ノ唯除ノ如キハ、終
南釋シテ抑止トス、抑止ハ往生ヲ許サ、ルコ
トナレハ、何ソ之ニ依テ信後ノ旋ヲ定メンヤ
ト、如此ノ二說、取捨情ニ任ス、

明治十一年二月九日出版御届
同年同月十六日發兌

代價拾錢

著者

福岡縣平民

遠藤玄龍

筑前國宗像郡下西郷村五番地

出版人

山口縣平民

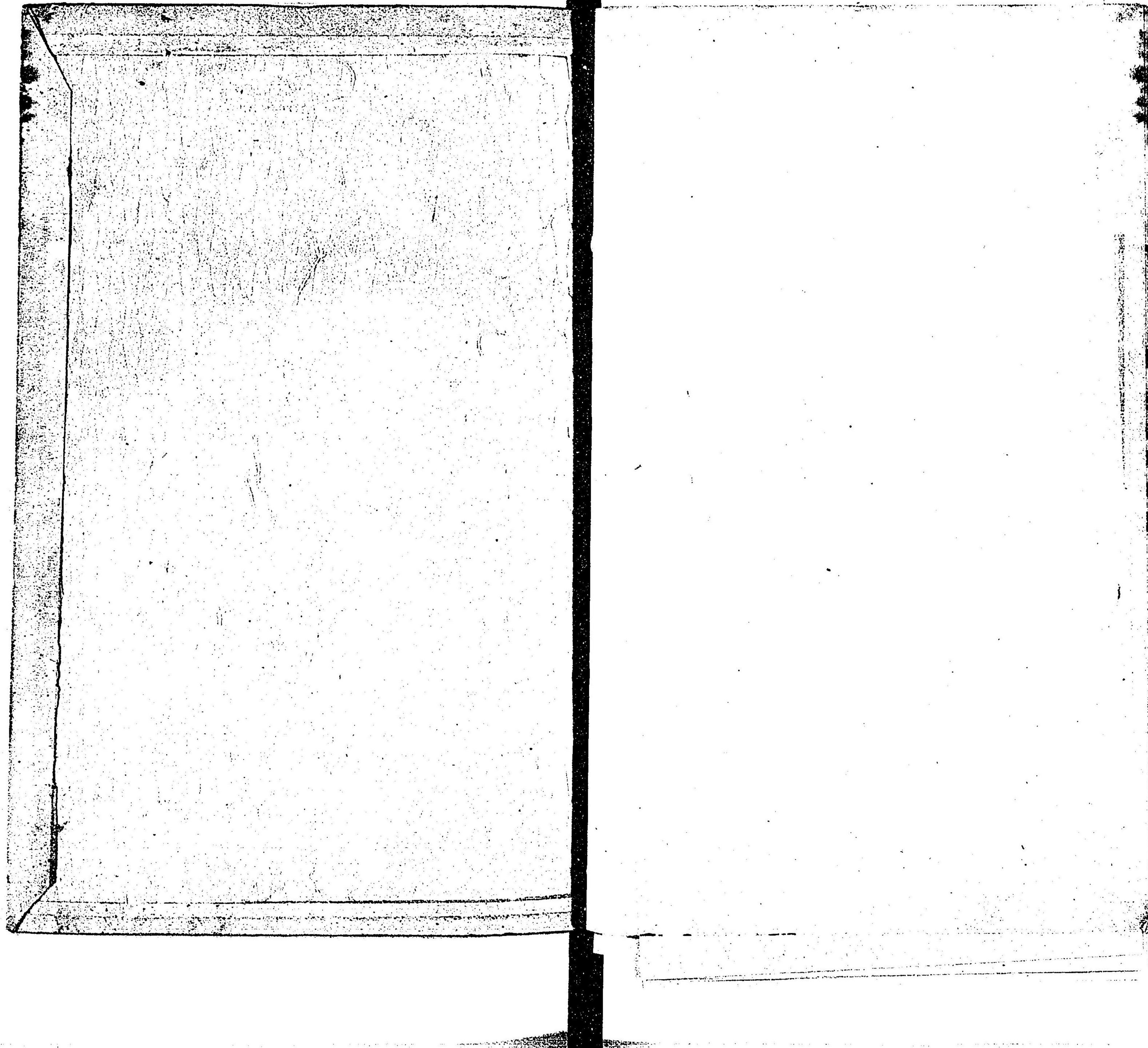
赤松連城

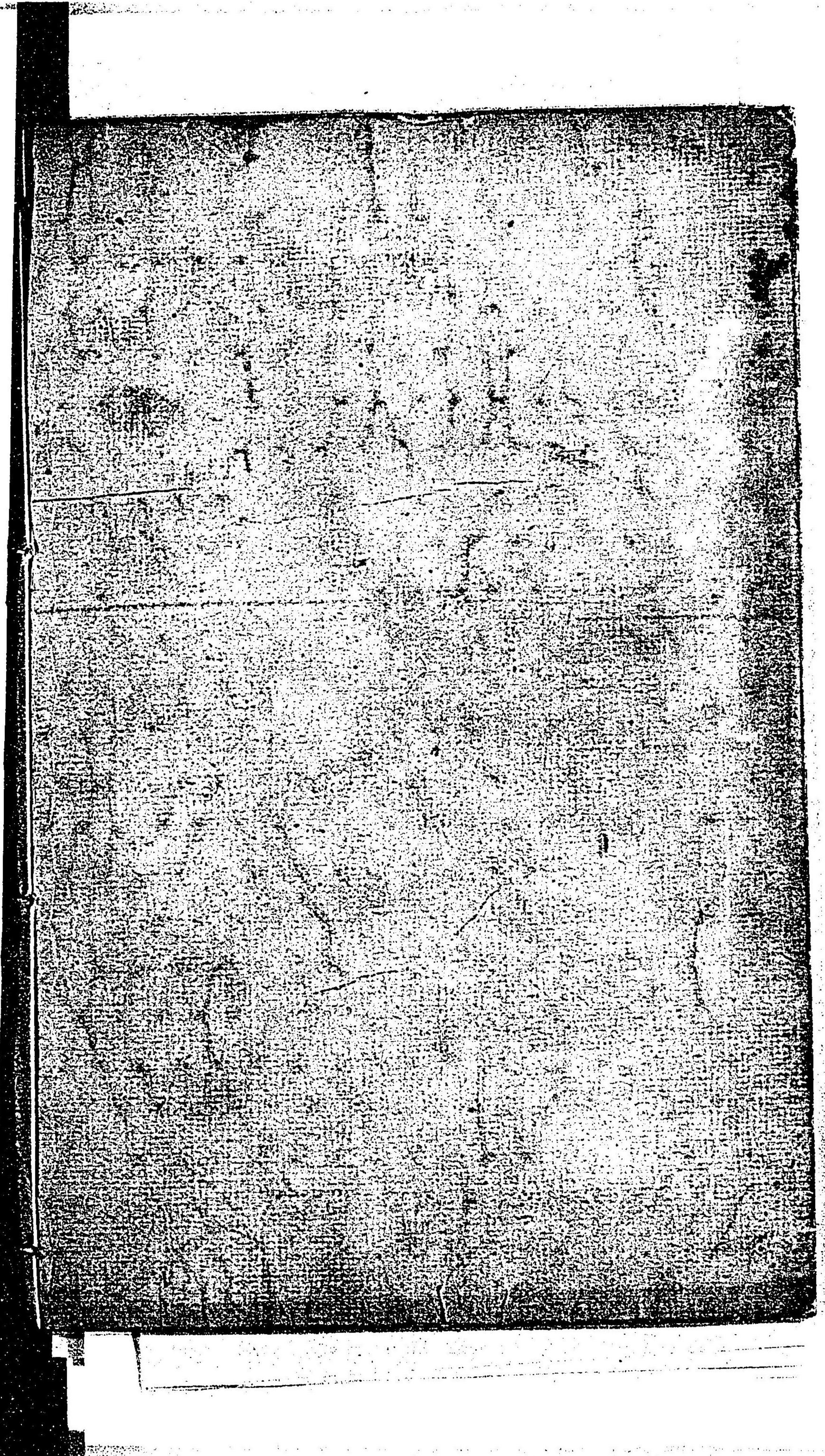
用防國都濃郡徳山村九百九十番地
京都府下下京廿三區巽町七百四番地寄留

發兌所

京都府下下京廿三區山川町二百七十二番地

永田調兵衛





特42
540

019245-000-5

特42-540

領解文問対

遠藤 玄龍/著

M11.2

ABF-2843

